

社会テレスコープ

わが俗舌

飯沢匡

昭和42年3月1日 初版発行



わが俗舌^{もくぜつ} (社会テレスコープ)

¥ 290

著者	© 1967	飯沢 ^{いゝざわ}	匡 ^{ただす}
発行者		秋田	貞夫
印刷所		三報社印刷株式会社	

発行所 株式会社 秋田書店

東京都千代田区神田三崎町 2-21

振替 東京 99353・電話 (261) 5151~5

社会テレスコープ

わ

が

俗

舌

飯^い

沢^{ぎわ}

匡^{ただす}



はじめのことば

何でも職業化すると、つまらなくなる。職業上、何か批評する種を探すなんて、凡そバカげている。「物いわぬは腹ふくるるわざ」という工合ぐあひに腹の中の気圧が高まり、腹が次第に張りつめて来たところで、出るものが出た時は、人を衝つつ言葉になり得るかも知れないが、腹中の内圧が、ちっとも高まっていけないのに、職業上、何かいって見たところで、どうということがあろうか。

私は芝居書きであるが、このごろ社会時評家のやるような役目を仰せつけられることがある。芝居は本職だが、この批評の方は素人だから、そういう取り得えが出るのかも知れない。

いと思つて機会が与えられるたびに腹中の内圧を低めていたら、ガスは次第に抜けて、ちつとも「腹ふくるるわざ」にならなくなった。有難いことといわねばならない。

毒舌家なんて何と間違えてか、いう人があるが、お読み下されば至^{いた}つて気は弱いので、強^しいていえば職業化してないから、利害に関係なく発言したというだけのことだろう。それでも随分、世間は狭くなり、相当に怨^{うら}みも買っているらしい。

大体、六十近くなつて何か悪口を並べるのは人間が出来ていない証拠である。そろそろ慈容^{じよう}に物判^{ものわ}りのいい笑いを浮べて、総^{すべ}てを抱擁するようにならなくてはならない年齢なのだろう。

私は抽象的な御談議は大嫌^{きょう}いな人間で、具体的な事実を具体的に論ずるのが好きだ。だから、はっきりしたニュースについて、いいたいことをいうのは嫌いではない。しかし、どういうわけか、このごろニュースそのものが、紋切型になつて来てしまったような気がする。問題が、いつまで経つても変わらないで、一つの習慣みたいになつてしまうと、批評している方も、バカの一つ覚えみたいに繰返していることに倦^あきて来る。その意味では政治を論ずるのが一番、新鮮味がない。あきれることがあつても、驚くことがないからだ。

批評にしろ、好奇心が動くことは争えない。思いも及ばぬ事象に直面した時に、批評精神も活発になるのではないか。

第二次世界大戦を三十歳代で経過したので、抽象論の害ということは骨身^{ほねみ}に^{こた}応えている。「俗舌」というのは、その意味で私が考え出した言葉であるが、とりも直さず私の立場を現わしている。

昭和四十二年二月

飯
沢
匡

まえがき.....△3 V

わが俗舌.....△11 V

・角兵衛獅子.....12	・紙幣の暖かさ.....14
・パキユン.....16	・窓辺の干し物.....18
・授賞式の形式.....20	・エリート意識.....22
・交通巡査の低級さ.....24	・複製礼賛.....26
・アイデアで外貨を.....28	・祝辞とギャギャ.....30
・プロレスなみの野球.....32	・無器用な政治家たち.....34
・「様」という字の使い方.....36	・文句をいわぬ消費者.....38
・重いランドセル.....40	・杉丸太と鉄パイプ.....42
・不快指数は不快なり.....44	・夫の浮気を助長する法律.....46
・自動車のスピード規制.....48	・「貰う」の使い方.....50
・怠者のための日記.....52	・低血圧人種が存在.....54
・録画の防犯利用.....56	・鷗外のフランス語.....58



社会望遠鏡

- ・ これでも サービス業か…… 60
- ・ 離婚と性格の相違…… 64
- ・ 風俗の均一化の因…… 62

△ 67
▽



視角視面

- ・ 航空機の事故…… 68
- ・ 惰性化した南極報道…… 72
- ・ アイデア強奪…… 76
- ・ 離れてゆく 親と子の間…… 80
- ・ 勲章の濫発…… 84
- ・ 「判子」の罷り通る国…… 88
- ・ 中共の整風と戦争…… 92
- ・ 赤ん坊と若い親…… 96
- ・ 代議士とその子分…… 100
- ・ 万国博のマーク…… 70
- ・ ビルの看板の危険さ…… 74
- ・ 宇宙ロケットと英国…… 78
- ・ 水ぶくれ食品の横行…… 82
- ・ 代議士ソングの愚…… 86
- ・ 公営バクチの追放…… 90
- ・ 苦勞なしの出世…… 94
- ・ 私たちと理論物理…… 98
- ・ 数学は文科系学生に無用…… 104
- ・ 迷信にみちみちた悪演出…… 110

△ 103
▽



有刺鉄線

- ・結婚式から飲食を追放せよ……………116
- ・デタラメな日本の美術教育……………122
- ・クツをはいて水虫に悩む……………128
- ・演奏家は「第二芸術」家なり……………134
- ・むやみにネクタイを贈るな……………140

△
147
▽



焦 点

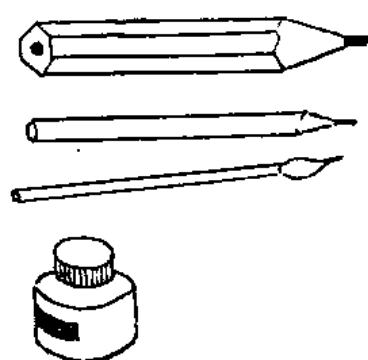
- ・哀れな若者たちよ……………148
- ・世界名作の評価……………154
- ・子供漫画の活力……………160
- ・T・P・Oと食事との関係……………166
- ・お行儀のよさか無感動か……………172
- ・粗暴な若者カメラマン……………178
- ・バスガイドさんの台本……………186
- ・右側通行に反対する……………192
- ・ルビを大いにおすすめる……………198

△
185
▽

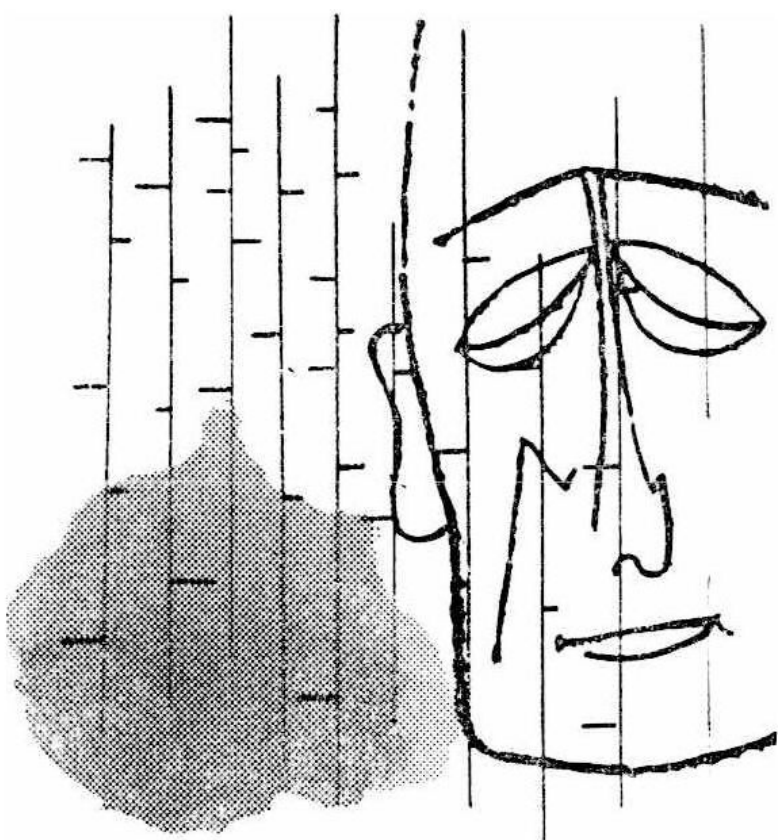
石

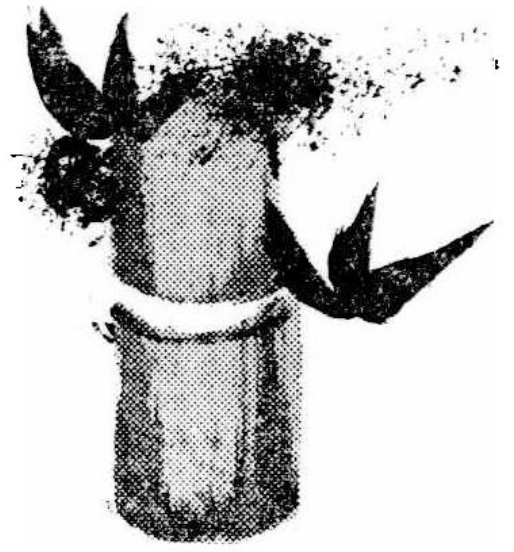
筆

・ みんなで大いに噛みつこう	204
・ ズボンの「右派」「左派」は醜態	210
・ 古美術ブームの実体	66
・ 色紙の角	146
・ 錯覚利用の金もうけ	184
・ 暦と手帳	216
・ 落第のすすめ	102
・ 各章末尾	V



表紙・イラストレーション	本文・カット
関	孝

[illegible]



角兵衛獅子

この間、NHKの「私の秘密」を見ていたら、昔なつかしい「越後獅子」が現れた。これは角兵衛獅子ともいって、私の幼時には、正月になると東京の家々の門口にやって来た。

幼児が獅子頭^{がしうち}を冠^{かむ}り、親方の打つ太鼓の音につれて身をくねらせて曲芸的な舞を見せるのであった。その不自然な体の屈曲のため、親方は無理に幼児に酔^すを飲ませ骨を軟化させるのだとか、子供たちは貧農から買われて来たものであるとか、あまりのびやかな話は聞かれず、むしろ陰惨な感じのものであった。

そのためか児童福祉の観念が普及するに及んで、ついに越後獅子は、あの賑^{にぎ}やかなメロディーの音曲にだけ残ることになった。

それがテレビに出たので私は驚いたが、見てると体の屈曲も大して不自然ではなく、

何で昔、あんなに残酷に感じたのかと思うほど緩漫なものであった。

これはオリンピックの体操や中共から来た京劇や曲技団などで、もつと度の強い体のくねりを見たせいだと思った。

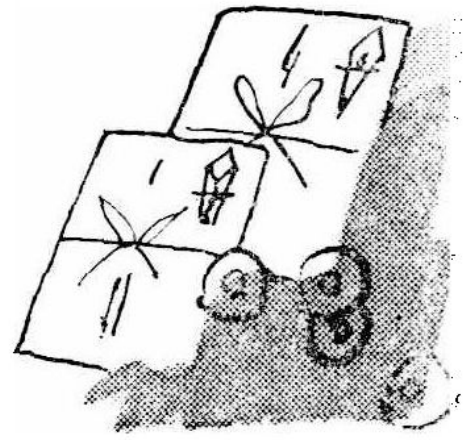
そういえば、昔、角兵衛獅子を自らやった経験のある人の談で、他人が思うほど辛いものではなく、農閑期の儲仕事もろしごととして当事者は至って暢気のんきにやったものだったとあったのを、どこかで読んだ記憶が蘇よみがえった。

こうなると獅子舞の児童虐待というのは、都会人の感傷に過ぎなかったことになるが、人の子の親はこれほどに子供の不幸には敏感な癖に、いざ自分の利害がつきまわって来ると途端に盲目になって、平気で児童虐待や福祉無視をするのはおかしい。

例えば幼児の知能テストを練習させてみたり、家庭で自分の子供に対して多くの児童虐待が行われている。

体の屈曲のために酔を飲ませるなんてのは生やさしい方で、こういった精神的な不自然な屈曲こそ空恐ろしい。

これは要するに親の欲から発してること、本質は太鼓をたたいて幼児を舞わして金を儲けていた角兵衛獅子の親方と、ちっとも変わらない。いや人を喜ばせ正月の空気を色どっただけでも、角兵衛獅子の方が罪が軽いだろう。



紙幣の暖かさ

この間、奄美大島^{あまみ}へ行ったら土地の人が「百円札をお持ちですか」と聞く。何か記念のそんな札でも出たのかと思ったら、普通の百円札をほしいのだそうだ。目的を聞いたら葬式の香典用^{こうでし}だという。「千円の間違いじゃないのですか」と聞くと「ここは百円が単位ですが、銀貨ではいかにも具合が悪くて」という答えであつた。

ここいらが日本人の神経の細かいところであろう。札でも銀貨でも使用価値は同じだが、紙袋に入れた時、硬貨は、音もするし、形が納まらず、みつともないという神経が働くのらしい。

私のような人間は、そんなこと気にしないが、よく頼み事の手紙をよこした人が、もう文面は一枚分で終わっているのに全く白紙の便箋^{びんせん}を、もう一枚つけ二枚にして寄越すのも細かい神経というのか。私は最初は、あわて者が二枚一緒にはぐって、そのま

ま入れて来たのかと思っていた。

このごろは、そういう白紙は一々、丁寧にとって置いてメモ紙に使っているが、私のような、ケチでない人は、あの白紙は捨ててしまうことであらう。

最近の人はドライだというけれど、案外こういう細かいところに神経を働かせている人もいる。これを合理的精神から無駄だなどというのは、いともたやすいことだが文化なんてものは元来、こういう生活の細かい部分に現れているものなのであらう。合理、合理といつてると、文化なんてものは時間つぶしの穀つぶしということになる。

私などは狡い人間で、自分ではケチ精神を發揮するが、他人から細かい神経を働かしたふるまいを見せられるとやっぱり感心する。ただし、それが、あんまり型にはまって、心入れがなくなると急に馬鹿らしくなり、合理の方がいいと思うようになる。習慣も、しつても心が通ってないと通用しないものだ。第一、心の伴わない習慣は自然に消滅する。

多分、奄美大島の島人の心は銀貨より紙幣を暖かく感じるのであらう。事実、ふれてみても暖かいものだ。汚れて皺になっても……。